

小学校英語教育課程研究事業発表会アンケートの回答

(1) 小学校で学んだ子どもたちが中学へ進んでいったとき、どのように中学校英語教育に入っていくのかを知りたいです。(英語教育関係者)

【回答】今後も卒業生が中学校でどのように教科としての英語に取り組んでいるのかを追跡調査したいと考えております。また、モデルカリキュラムと中学校の英語学習とがスムーズに連携できるよう、小学校と中学校双方の英語への取り組みの改善を図っていきます。

(2) HRTの先生を主としたすばらしい授業をありがとうございました。

1. ALTの先生は常駐ですか。予算はどこから。

2. 週1回だとどうしても忘れてしまい定着が難しいです。定着のための工夫はどんなことをしているのですか。

3. 校内の研修はたりていますか？

4. 評価規準はやはり必要ですか？(小学校 教員)

【回答】

1. 通常は各学校1名のALTが入っています。渋谷区の予算で派遣しております。

2. 代々木小学校の実践でもご紹介しましたが、学級で朝の会で英語の歌を歌ったり、集会活動で英語を使った発表をしたりして日常的に英語に触れる機会をつくっております。

モデルカリキュラムでは、一つのユニットが3つのレッスンで構成されています。児童はレッスンごとに学んだ言語材料やセンテンスを繰り返して使い、前のレッスンをいかしています。ユニットとしてまとめることで、繰り返しを多くし定着しやすいように工夫しています。なお、モデルプランのレッスンの中で、既習の単語や表現が、別のユニットの場面でも繰り返し使われるようにレッスン内容を工夫しています。

3. 昨年度、本年度の研修は授業研究、職員研修を中心に行ってまいりました。職員研修では、レッスンプランの作成やクラスルームイングリッシュをワークショップとして月に1回入れました。ALTとの関係も良好になりました。次年度以降も職員研修を継続的に行っていきたいと考えております。

4. 評価規準は必要であると考えます。本研究では3つの評価の観点(「態度、意欲、関心」、「参加する、聞く、話す」、「コミュニケーションを楽しむ」)から児童の英語活動を評価し、一人一人の児童の伸びの確認や、次の活動へのつなぎができました。

(3) 3～6年生は総合的な学習の中で行っているのはわかるのですが、1、2年生は年間30時間の活動を何の教科で行っているのですか。(小学校 教員)

【回答】各学校、裁量の時間等の各教科領域の時間以外で確保しています。

(4) HRTとしてどの程度の英語力が必要なのでしょうか？また、先生方はどのように自分の英語力を高める研修を行っているのでしょうか？(小学校 教員)

【回答】クラスルームイングリッシュを活用して英語活動をすることや、ALTとのコミュニケーションがとれることが必要であると考えます。個人的に研修会に参加している方もいますが、今後も校内研修などで一人一人の教員の力を高めていきたいと思っております。

(5) 英語教育の開発と他教科との関係はどうだったのでしょうか？(大学関係者)

【回答】研究紀要 pp.59-61 に記載している千駄谷小学校第4学年の実践では社会科の学習と関連付けて英語活動を行っております。これからも他教科との関連を図ることができる場所は英語活動の中で取り上げていきたいと考えております。

(6) 1年2組の「FRUTES & SNACKS」の授業で banana? / Yes, please / No, thank you という shopping の場面設定での発話があったのですが、人間の日常生活の中でお店に行き店員の方からいきなり banana? と聞いてくる situation は存在しないと思います。そのような社会に存在しないであろうコミュニケーションの場面設定の中で培われる「コミュニケーション能力」とは一体何なのか、という疑問を感じていました。(大学関係者)

【回答】英語活動の場面設定は、ご指摘のように実際起こりうる場面かを考慮した上で設定しなければなりません。ただし、児童の実態や設定される時間、その日のテーマ、活動内容などを考慮した上で、場面設定も柔軟にとらえる必要があると考えます。

ここで今回の公開授業におけるこの単元でのポイントは児童に英語の発音とイントネーションを楽しませることにありました。その場面設定としてカフェテリアを想定いたしました。児童が自分で選択する場面などで、店員からいきなり声かけをして促すことは往々にしてあることと考え、設定しました。

(7) 賛否両論あると思いますが、評価に対する考えなども聞かせていただければと思います。(小学校 教員)

【回答】評価についての考え方は、研究紀要の pp.144 152 に述べてありますので、ご覧ください。

(8) 低学年から文字の導入という先進的な取り組みがありますが、本当に「中学校の前倒しではない」と言い切れるのでしょうか。児童のアンケートで「英語は楽しいですか」の問いに6年生はすでに12%が「いいえ」と答えていることが大変気になります。この子たちが中学校へ入学したときにはすでに英語嫌いが学習のスタートラインとなるのです。

渋谷区のねらいは英語活動でしょうか、それとも英語学習でしょうか。英語を通して子どもたちに何を育むのか、もう一度明確にすべきではないでしょうか。アンケート「楽しいか」「好きか」の「どちらともいえない」「いいえ」の子どもたちの支援を考えなければなりません。憂慮します。(英語教育関係者)

【回答】文字の導入については、中学校の前倒しではないと言い切れません。ここでの文字の導入につきましては、中学校の英語教育課程とは全く異なった理念に立っております。具体物、写真、イラストとともに主に名詞を中心に英語活動の中で取り入れております。また、アルファベットについては、児童の身の回りにも比較的多く使われておりますし、児童も興味・関心を示しております。研究発表会でご覧いただいたように英語活動の中でこれからも取り入れてまいりたいと思います。アンケートの結果ですが、平成16年度と平成17年度の2回調査した結果を対比しますと、前年度から児童の興味・関心については数値が伸びております。次年度以降もモデルプランをもとに英語活動を充実させていくことによって、ご指摘のように英語活動が好きな児童の割合を高めてまいりたいと思います。

渋谷区は「小学校英語活動」として取り組んでおります。今後の学習指導要領など国の動向を視野に入れ、そのあり方も考えていかなばならないと考えております。

(9) 代々木小学校の実践研究発表の中で「系統性」をもたせるとありましたが具体的に系統性を持たせるといことはどういうことなのでしょう。どんな系統性を年間指導計画の中に盛り込まれたのでしょうか。専門的な立場から津田塾会の皆様にもカリキュラムを作るときの系統性のポイントを具体的に教えていただきたいと思います。(小学校 教員)

【回答】モデルカリキュラムの構成については、研究紀要 pp.120-131 で述べてありますので、そちらをご覧ください。

(10) 小学校で年間30時間レッスンを受けた児童が中学校へ進学して、何もレッスンを受けていないで(もしくは回数の少ない)児童とは英語力に差が出るのでしょうか。(小学校 教員)

【回答】英語に対する態度の面で差が出てくるのが考えられます。小学校は英語の素地をはぐくむ大切な時期であり、その成果が現れるのは高校生もしくは大学生になる時期と考えられます。長期的なスパンで見守ることが大切です。渋谷区では、来年度より全小学校でモデルプランをもとにして英語活動を1、2年生20時間、3～6年生30時間実施する計画です。渋谷区内のどの児童も中学校へ進学したときに困ることはないと考えております。